よるになくおんなかくまる

深夜秘泪

後宮革命的□□□同盟

削除

五月十九日夜半早稲田の森に時ならぬ鬨の声　これぞ独立社学生の助っ人に五派七派有りとあらゆる武闘派がマル解放派の銀の仇を討たいでかと執念籠めたるゲバ棒勇ましく三派禁男の地たり女革マルの聖地文学部たち垂十三重の隊列かたき繁禅一番の大いくさである　そもそもその心をばと甲せば女革マルのいと優しき母性愛とはぐくまれ出ずる荒波をよそに見てすくすくと育ちし我等なれど男と生れし悲しさか後ろ髪不幸者と謗らるるとも パクス革マルーナの内にてあるよりはカオスの嵐を求めて死すとも我行かむ

との日本男子の心意気なり　かの大智識フロイト先生の申されしマザーコムプレックスの祖総反応とでも言ぶべきかかの学生大会にて予想だにせざる一敗地にまみれたる革マルは足取り重く屠所に引かるる羊の如き有様に片やかねてこの日と心に誓ひし全共闘の一味の面々　死に場所はここぞと思定め後朝の別れの接吻は奴隷の妻人には見せじと押寄せる注撃は奴隷の如き前進にて革命を合がる赤光も光背のもえるかとぞ見えたるおのおのの戦士の面魂だ古のもえふかとぞ見えたるの反乱をばそぞろに想起せしめるものがあったが戦術おしたてたるやからの足音はさぞや革マルにも弔鐘の如くにひびいたことであろう　鎧袖一触さてこそ血戦とぞ見聖遷こそって目をそばだてしにこはいかに女革マル俗に言ふ尻に帆かけて逃げ出ずるは一文自治会室血気にはやりし解放派の面々　あら情けなや　とぞ呼ばわったり

駆場まで追って決戦　革マルにはあらずやいざ尋常に勝負　こその年我等を討たんがためはるばる見大はるばるこの面々　駆けつけたり

言はれて革マルにわかつ人ぼに為ったかオンになったかスーとも言はずハーとも言はず事ここに至って問答無用牛乳びん有用とばかり闇夜に飛んだる一本二本ここに亜蛾早稲田の夜の火ぶたは切って落されたのである

この時遅く高島小山の西大将いざお家再興の日のためにと女子供一族郎党引連れてりかたとなく落行きたり　嗚呼敗軍の将兵を語らずとかわかぬ間の中　されど誘惑も

死中に活を求めて転進したる西将の心境こそいかなりけむ　なたまた委を守りしオトリ部隊の主君を思小心こそ奇特なれ

柘元
瓦版センベイ太郎

©無学同盟作者集団

心はやれど多勢に無勢時利有ず
黒かこの御利益もなくあはれ
落城は目前にせまれり
ここに人情紙の如き世に
仁義にに生きる林義長
子分供をば押止め
四十五十の革マルに
感じて降服をすすめしは
花も実もある武士の心ばえなり
健さんもかくやと思われる
闘いぶりであったとぞ
全共闘派のゲバ評ばりではあった

堀辺の与太郎

続刊予定

女革マル武勇伝
出歯の亀女
革マル刺客列伝
中馬遥（父逃中）
革マルはくエムのスパイか（仮題）
マオリンスキー
記者　宮本修太郎
ゲバ評論家になるには
大盛不実

みんなの歌ごえ
みんなのユーラス隊
（略称　みんコラ）

坂上早稲田瓦版でした